

大学・高専機能強化支援事業
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 10月 21日(火)	区分	支援1
選定年度	令和6年度	大学名	富士大学
設置等組織名	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 デジタル創造学部デジタル創造学科	設置・定員増員年度	令和9年度
事業計画名	富士大学「スポーツ健康科学部」及び「デジタル創造学部」の設置計画		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

- ・令和8年度の認可申請を予定しているが、現状、スポーツ健康科学部はカリキュラムのみ枠組が確定している状況であり、事業計画に遅れが認められる。
- ・また、デジタル創造学部は、カリキュラムの策定や基幹教員の採用といったソフト面と、校舎の設置場所等のハード面の両方が完了していない状況であり、大学は事業計画の延長も視野に入れている。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・屋内運動施設を活用し、センシングデータを収集することは Society5.0 にも沿っており、これを発展させることで、今後、好事例となる取組として期待される。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・設置審査に向け、丁寧かつ着実に取組を進めることが重要である。工学分野の基礎から専門課程の中での階層構造的なカリキュラムの組成や、カリキュラムと紐づいた外部との連携のブラッシュアップ、実務家教員とアカデミックな教員のバランスについても意識するとよいのではないかと。
- ・学生が何を学び、どのような進路に進めるのかが見えづらく、一貫性のあるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定することが必要である。
- ・女性スポーツ研究センターの設立等、女子学生を増やそうという取組を行っているが、使用していない古い校舎の安全管理を行う等、女子学生が安心して学べるような環境の整備にも力を入れていただきたい。
- ・図書館について、蔵書が少ないと思われる。閉架図書も積極的に学生に活用させる等、図書館の充実を図っていただきたい。
- ・スポーツの動作分析を行い、そのセンシングデータを活用する等、スポーツ健康科学部とデジタル創造学部の取組の融合・連携を行っていくとよいのではないかと。